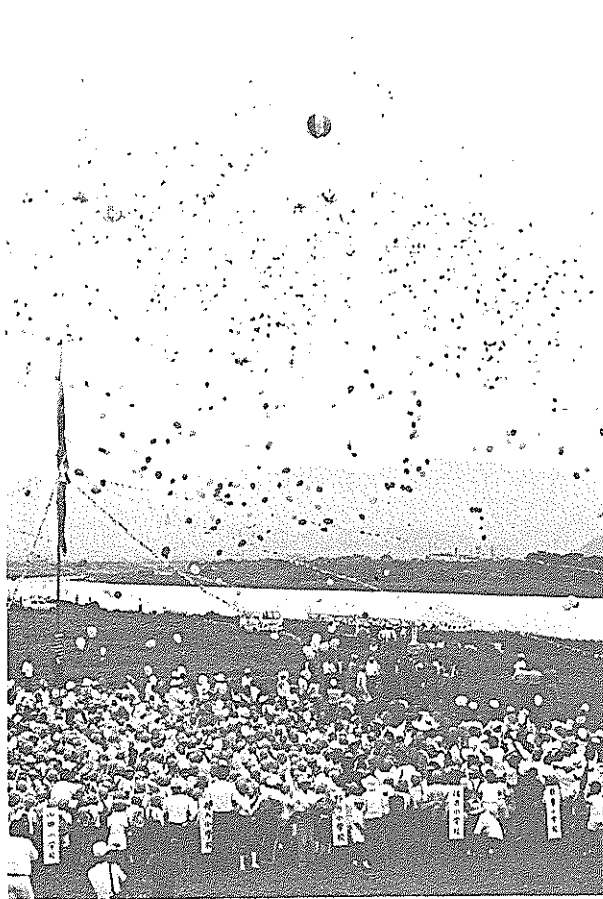




大空に2000個の風船を飛ばして「水を守ろう」と誓う

きれいな川と海を守ろう

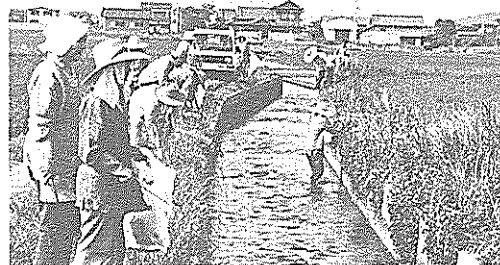
物部川で県中央大会

「ふるさとときれいな川と青い海を守ろう」——六月三日、物部川河川敷で「第三回高知県川と海を守る中央大会」が開かれました。この大会は、環境週間（六月五日～十一日）を前に、県水をきれいにする会や県漁連などの主催で開催されたもので、物部川流域の市町村の小学生ら約二千五百人が参加しました。

午前中は、参加者による河川の清掃や啓発運動を展開。午後の記念大会は、小学生が約二千個の風船を大空に飛ばして開会。「美しい自然と命の水を、いつまでも守り続けます」と、小学生による力強い宣言が大会を盛り上げていました。



町内会では、朝早くから約50人が排水路の清掃（東町）



田んぼわきの水路もごみが増えていく（片山）



汚れがひどい舟入川の清掃に取り組む（篠原）

一斉清掃—各地のスケッチ



新川川を清掃する青年団と婦人会のみなさん。ポイ捨ての空き缶が目立つ（大涌）

171団体、5000人が参加

空き缶、ビン類の多さにビックリ

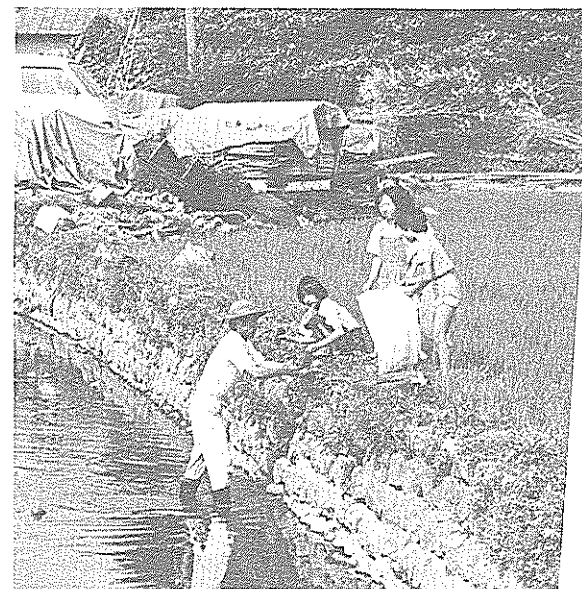
日ごろ、清掃する機会の少ない、河川や道路をきれいにしよう——と、今年も六月五日、「一斉清掃」が行われました。

昨年までは、家庭のゴミを出す人も多く、本来の目的に反した結果となっていました。今回は家庭内のゴミは少なく、ようやく環境美化意識が、市民に定着してきたようです。

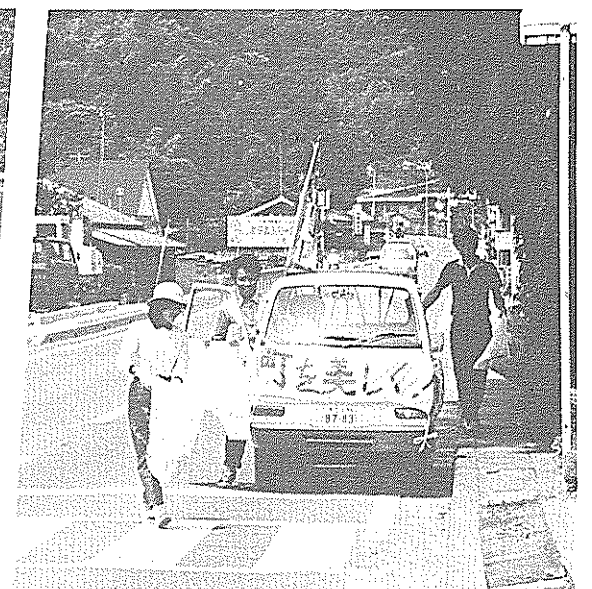
この日は、各部落、老人クラブ、婦人会、青年団など百七十一団体の協力を得て、総勢五千人の参加で、地域の隅々まで清掃を行いました。集まったゴミの量は、百二十トンのほり、その三分の二は空き缶、ビン類です。皆さん「ポイ捨ては絶対しないように。一般に人間は、環境に慣れやすいと言われ、壊されつつある環境

の中でも、何とも思わなくなってきました。しかし、やはりいつも美しい環境で暮らすこと、それは心の健康につながっていくものです。

いつまでも自然に恵まれた、美しい南国市のために、ふだんから市民みんなで環境美化に努めましょう。



子どもたちも、ごみ拾いのお手伝い（穂生）



国道32号の空き缶拾いをする岡豊地区青年団員（滝本）